

内田クレペリン検査[®]

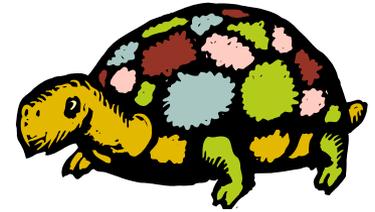
タイと周辺国人材の集団行動特性と個別分布の違い
～内田クレペリン検査から考える適材適所～

2016年6月21日

日本商工会議所 金融保険部会

作業検査法のメカニズム

- 「ウサギとカメ」からわかること。
- 競争という「作業」のプロセスが、ウサギとカメの違いを明らかにする。
- 作業のこなし方(プロセス)に、「~らしさ」があらわれる。



- 自己認知をベースとしない。
- 文化、宗教的な価値観などによるバイアスが少ない。

内田クレペリン検査の作業モデル

15分

5分休憩

15分

5 7 8 6 5 4 9 . . .

2 5 4 1 9 3

60秒で改行

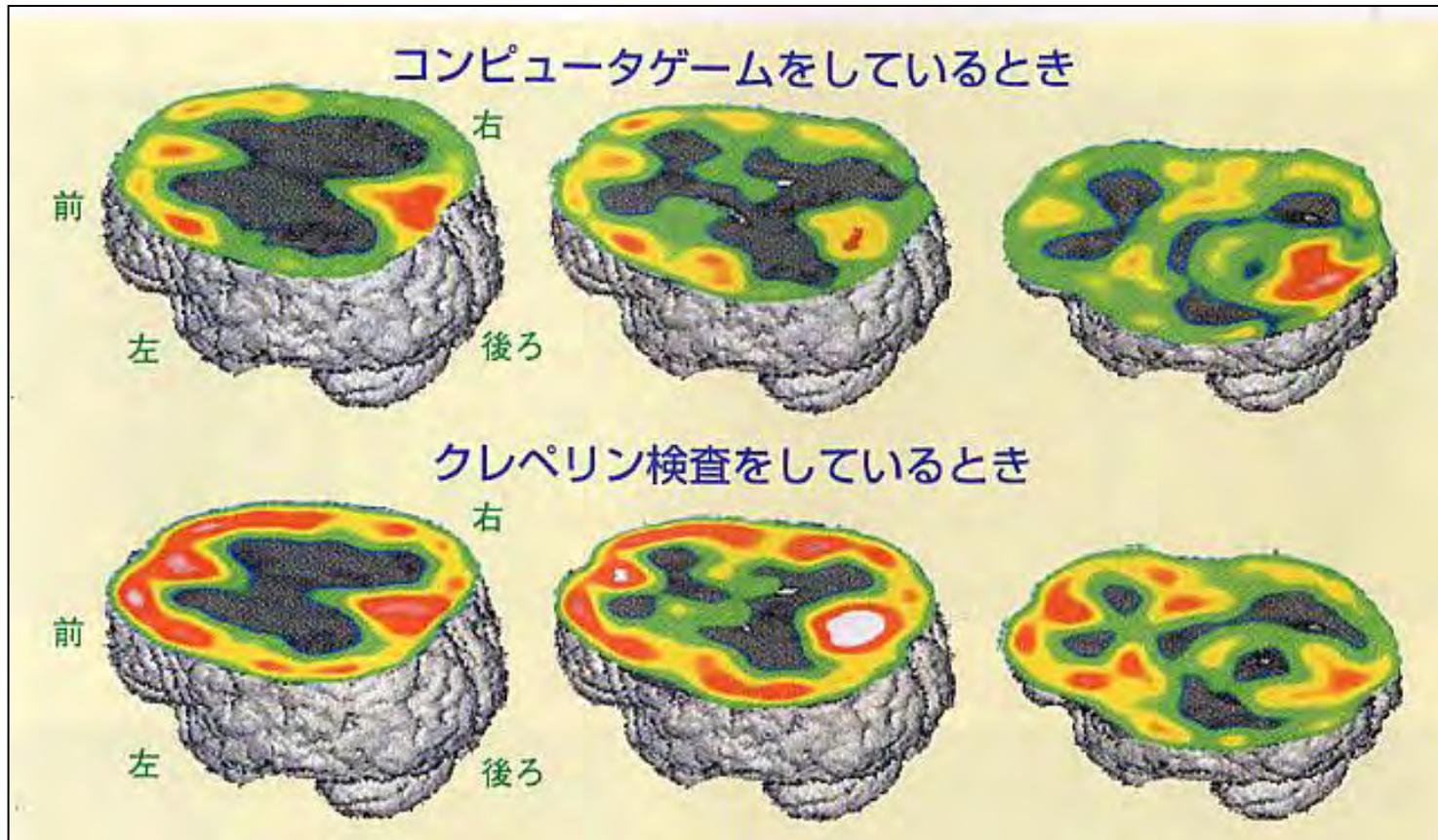
5+7=12 8+6=14

7+8=15 6+5=11

- 精神的作業の「モデル」としての一桁の足し算。
- 文化や世代間の影響を受けにくい作業モデル。

作業モデルの生理的根拠

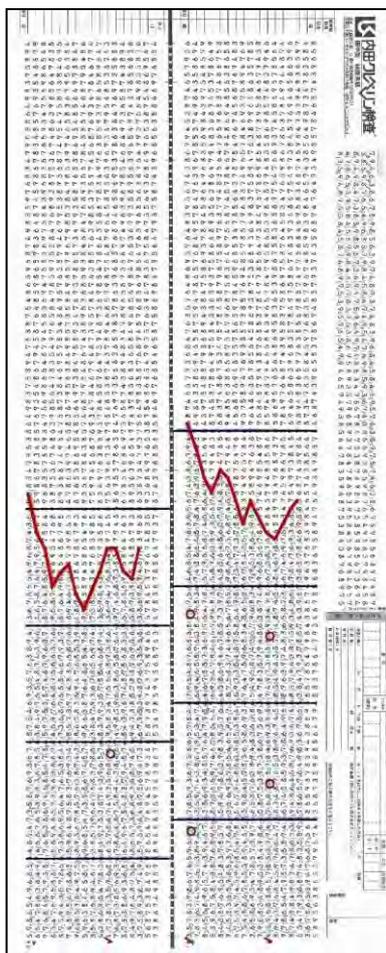
脳が活性化した状態を擬似的に作り出す



川島隆太・著『自分の脳を自分で育てる』(くもん出版)より

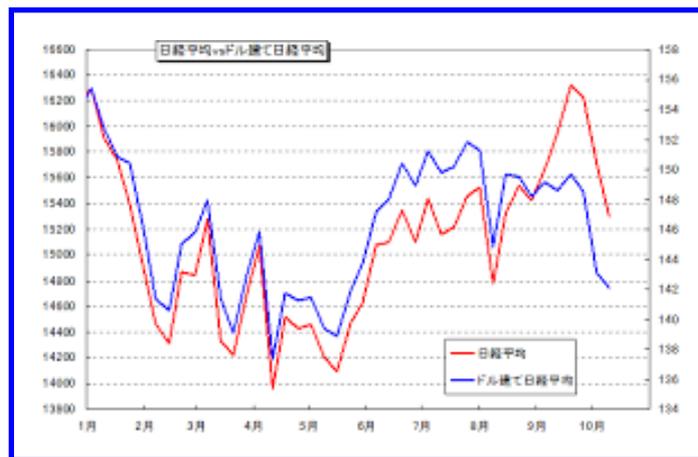


内田クレペリン検査の結果 作業負荷への反応が可視化される



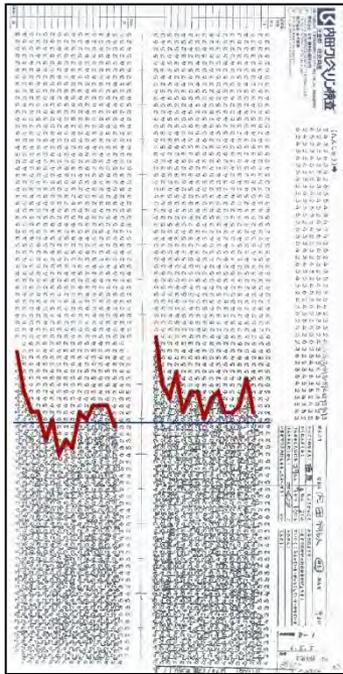
【三つのポイント】

- 作業量： 足し算のできた量
- 作業曲線： 一分後との作業を結んだ折れ線グラフ
- 誤答： 答えの間違い（※）但し、出現頻度は高くない

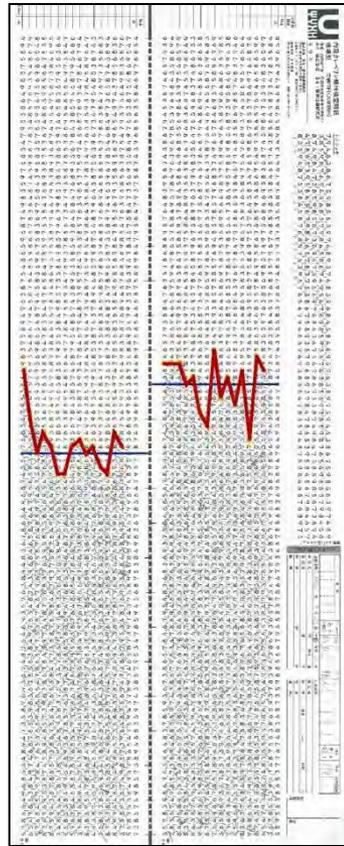


グラフの動きから判断
するという点では、
ちょっと似ているかもし
れません。

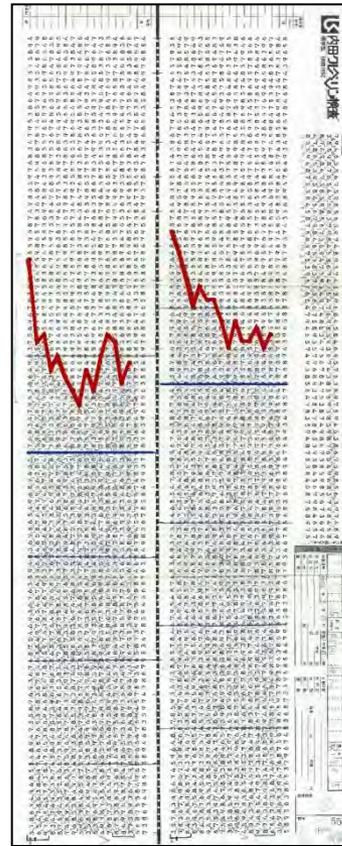
同一人の作業曲線の変化



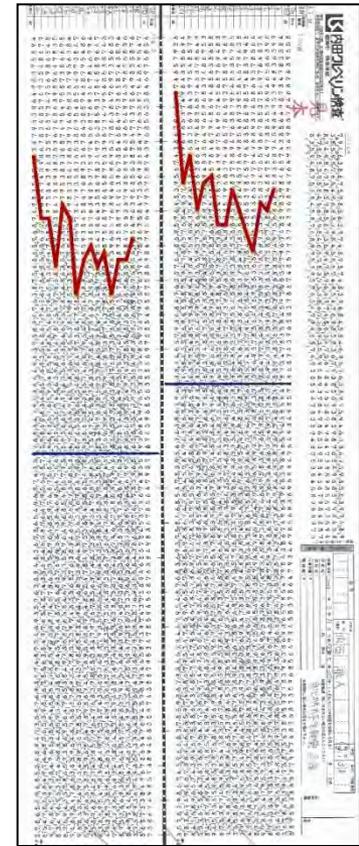
9歳



19歳



28歳



38歳

日本国内での利用状況 ①

鉄道業界における安全管理

- 鉄道運転免許の取得要件に指定。
 - 「動力車操縦者運転免許に関する省令」(国土交通省)
 - 第三章 第八条の三(適性検査)において指定
- 内田クレペリン検査と鉄道事故の相関に基づき、統計的な活用(個人の弁別ではなく、集団単位で事故の発生確率をコントロールすることが目的≡保険の考え方)。
- 運転士だけでなく、駅員や工事事業者へも安全基準を拡大する傾向。日本鉄道の安全神話の一旦。
- 海外への鉄道技術(HRMも含む)の輸出。



日本国内での利用状況②

一般企業における採用選抜

□ 製造

本田技術研究所、富士フィルム、大日本印刷、JFEスチール、三菱重工、トヨタ自動車、セイコー・エプソン、ほか

□ 卸売・小売、飲食

三越伊勢丹、すかいらーく、生活共同組合(コープ)ほか

□ 金融・保険

三菱UFJ信託銀行、岡崎信用金庫、中南信用金庫、ほか

□ サービス、その他

総合警備保障、アマゾンジャパン・ロジスティクス、ヤマト運輸、神奈川中央交通、(実習生受け入れ機関)、ほか

日本国内での利用状況 ③

官公庁における採用選抜

□ 人事委員会

判定依頼: 15,118名

用紙購入: 17,640枚

講習会参加: 15県

※33都道府県でご利用

□ 教育委員会

判定依頼: 12,727名

用紙購入: 14,847枚

講習会参加: 2県

※18都道府県でご利用

※2014年度実績による



□ 警察本部

判定依頼: 15,839名

用紙購入: 21,333枚

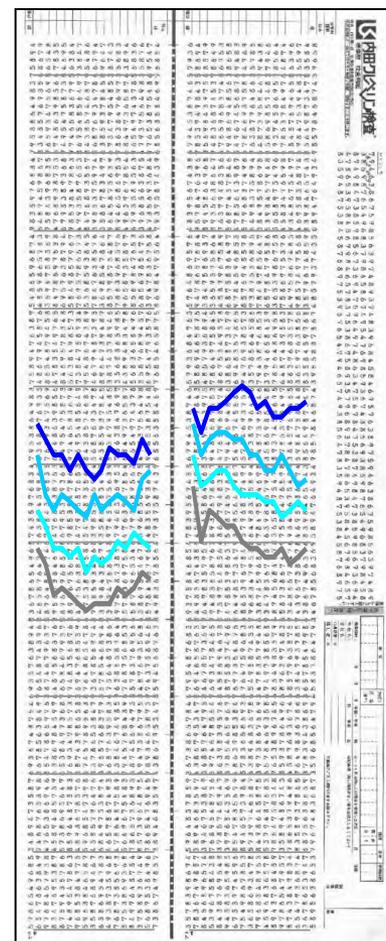
講習会参加: 13府県

※33都道府県でご利用

日本国内での利用状況④

教育・スポーツ現場での指導

- 高校を中心に、進路指導や学級アセスメント、生徒理解の資料として活用。
- 柔道の強化選手への指導など、さまざまなスポーツにおいて、選手の個性理解やコンディション作りの資料として活用。
- 臨床的な視点を重視。



日本国内での利用状況⑤

精神医療分野でのアセスメント

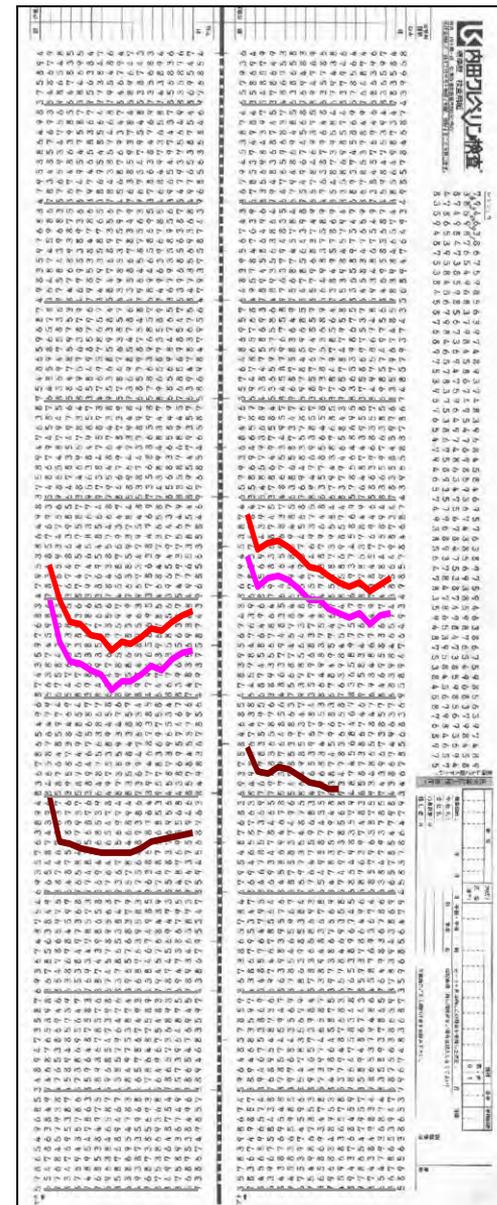
- ストレスチェックの義務化も始まり、社員のメンタルヘルスに関する企業の責任が問われる時代に。
- ストレスチェック(一次予防、二次予防)以上に、現場の担当者が頭を悩ませているのが休職者の職場復帰と再休職率の問題(三次予防)。
- 内田クレペリン検査を職場復帰の判断資料として使用する企業やクリニックの増加。
- 医療報酬の点数にも指定されている。
 - 「動力車操縦者運転免許に関する省令」(国土交通省)
 - 第三章 第八条の三(適性検査)において指定

日本人の年代別 平均作業曲線による比較

- 日本人(2009-13年:128,913名) AV=60.3
- 日本人(1987年:12,719名) AV=56.7
- 日本人(1937年:10,479名) AV=37.9

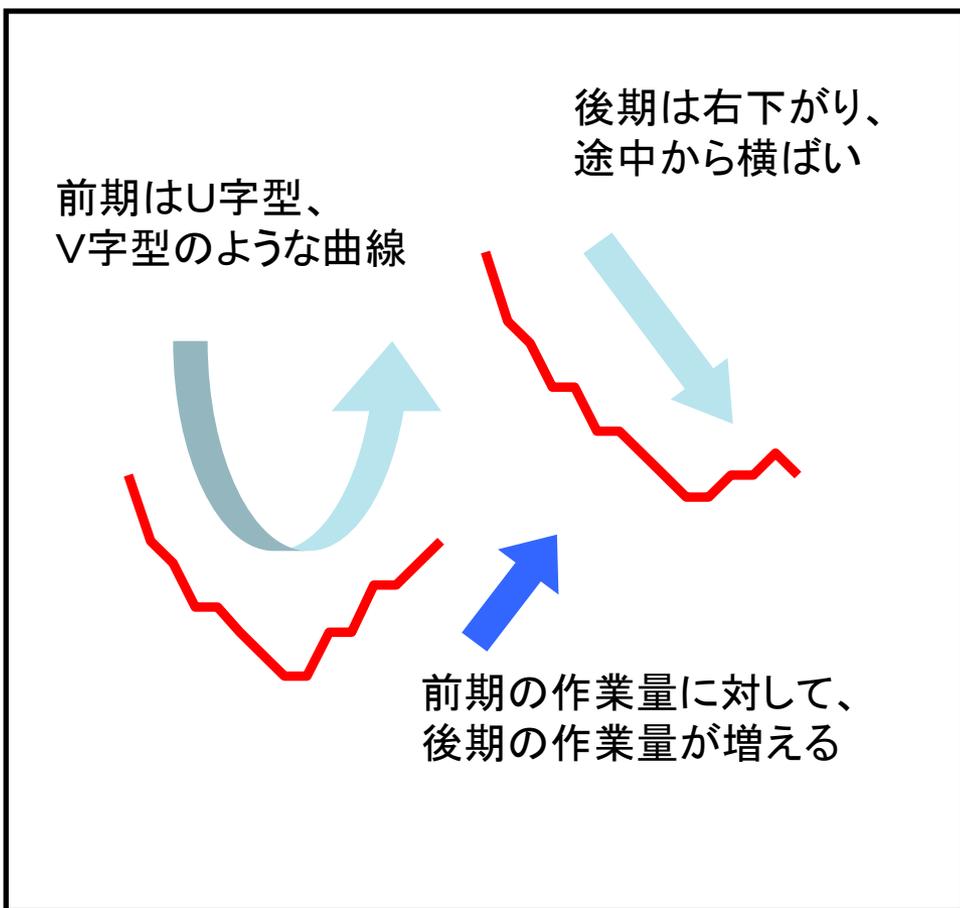
□ これまでの調査で、内田クレペリン検査を集団として分析すると、一定の曲線(グラフ)の形に収れんすることがわかっている。このグラフを平均作業曲線という(右図)。

□ この性質を利用して、さまざまな集団の傾向を比較することができる。



平均作業曲線 ≡ 定型とは

外国人にもUKを適用できる可能性



- ・作業曲線の形はひとりひとり異なり、たくさんのバリエーションを持つが、集团的にみると、結果に一定のパターンが出てくる。
- ・そのことを示すのが「平均作業曲線」の存在であり、それをもとにした曲線モデルが「健康者常態定型＝定型」。
- ・平均作業曲線は、世代や地域を越えて、かなり普遍的に同様の形を再現することが確認されている。

→はたしてアジア地域でも再現されるのだろうか……

東 南 ア ジ ア 諸 国 国 別 の 比 較

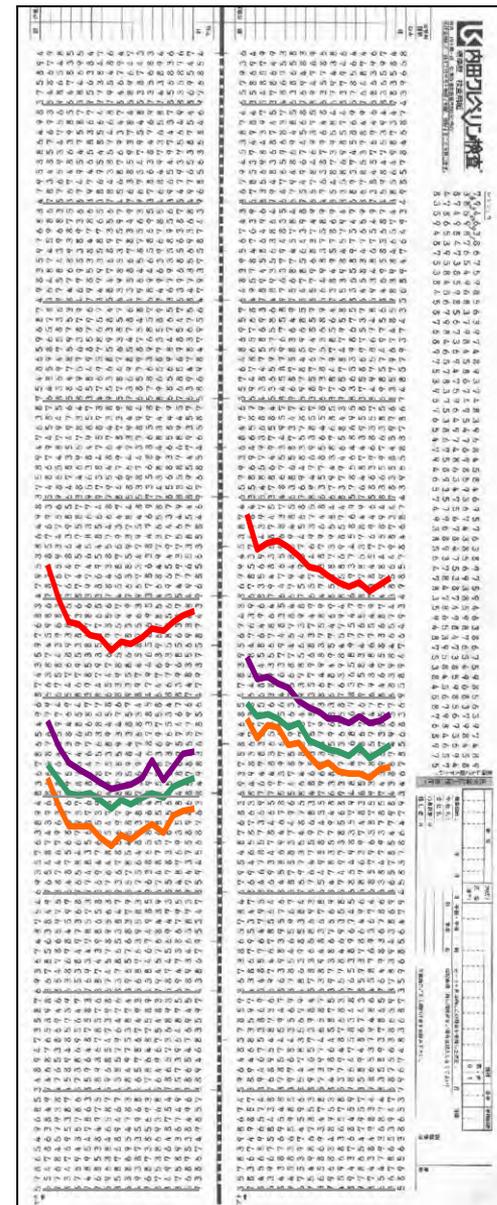
日本人(2009-13年:128,913名) AV=60.3

タイ人(675名) AV=43.1

ベトナム人(511名) AV=46.0

ミャンマー人(388名) AV=40.6

- 国や文化が異なっても、平均作業曲線の骨組み(基本傾向)が再現される。
- ただし、平均作業量や曲線の部分的な特徴には、各国の「お国柄」とも呼べるものがみとれる。
- 日本から進出する企業が、各国における生産性を予測する参考資料としての活用可能性。

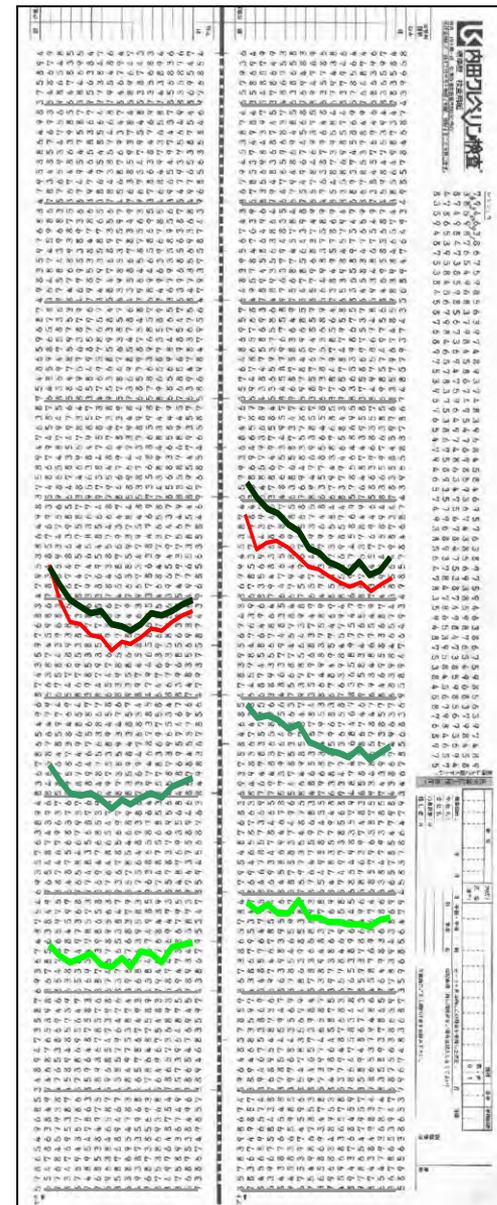


タイ人の特徴比較

タイ人の作業量比較

—	タイ人 上位20%(135名)	AV=62.3
—	タイ人 全体 (675名)	AV=43.1
—	タイ人 下位20%(135名)	AV=25.7
—	日本人(2009-13年:128,913名)	AV=60.3

- 平均作業量はベトナム人とミャンマー人のあいだ。
- 作業曲線は他の二国と比較して、やや狭い(初頭が出ない、上下の変動が少ない)印象。
- ただし、タイ人のなかでも作業量のばらつきがある。
- 作業量上位20%で抽出すると、ほぼ日本人の平均作業曲線と重なる。



ベトナム人の特徴比較

ベトナム人の比較

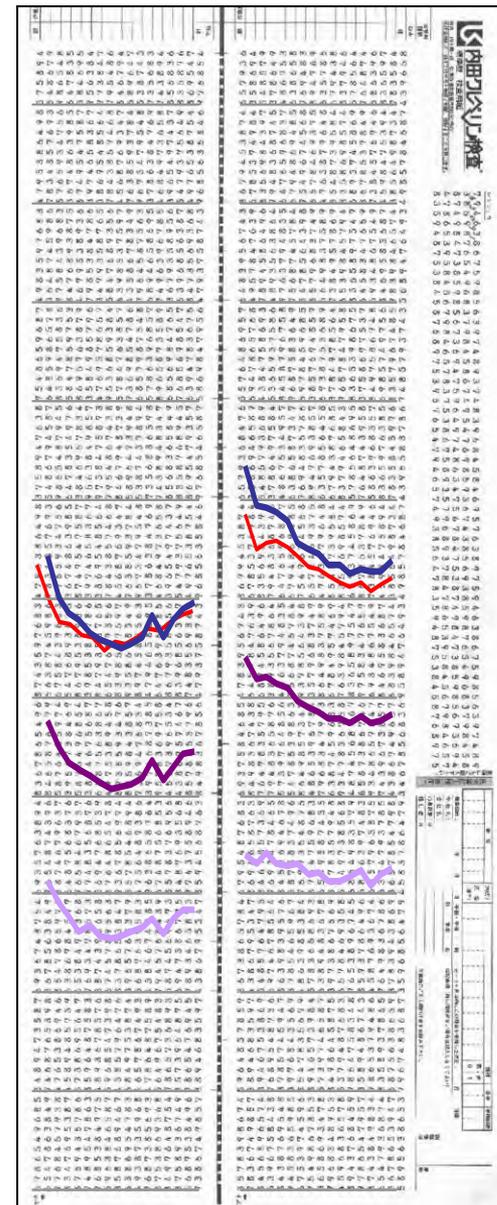
ベトナム人 上位20%(102名) AV=61.6

ベトナム人 全体 (511名) AV=46.0

ベトナム人 下位20%(102名) AV=29.8

日本人(2009-13年:128,913名) AV=60.3

- 平均作業量はタイ、ミャンマーと比べやや高い。
- 作業曲線は初頭部分(取り掛かり)が出るのが特徴で、過去のデータから中国の曲線に似ている。
- ただし、ハノイとホーチミンで傾向が異なる印象もあり、今後の調査が必要。

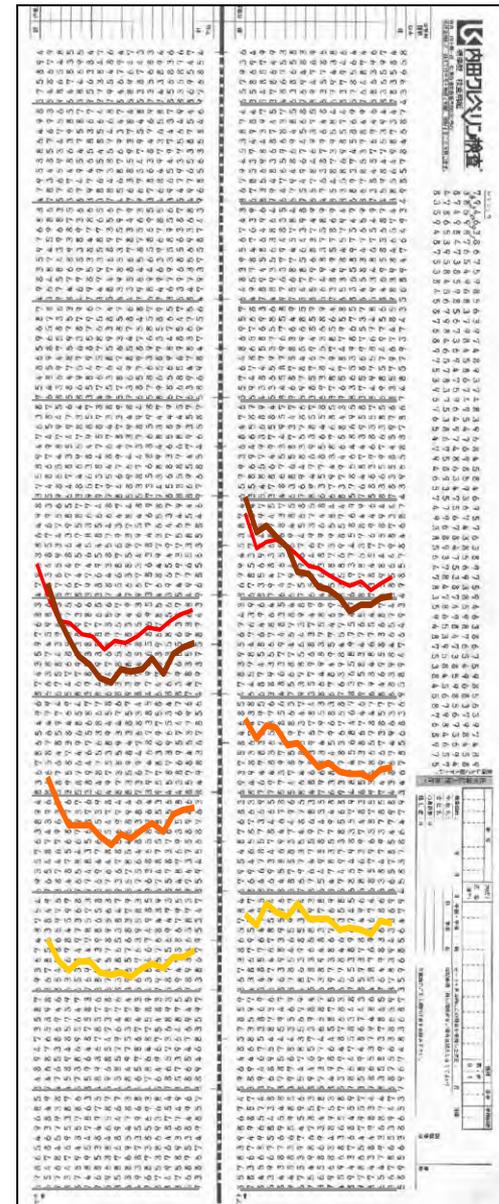


ミャンマー人の特徴比較

ミャンマー人の特徴比較

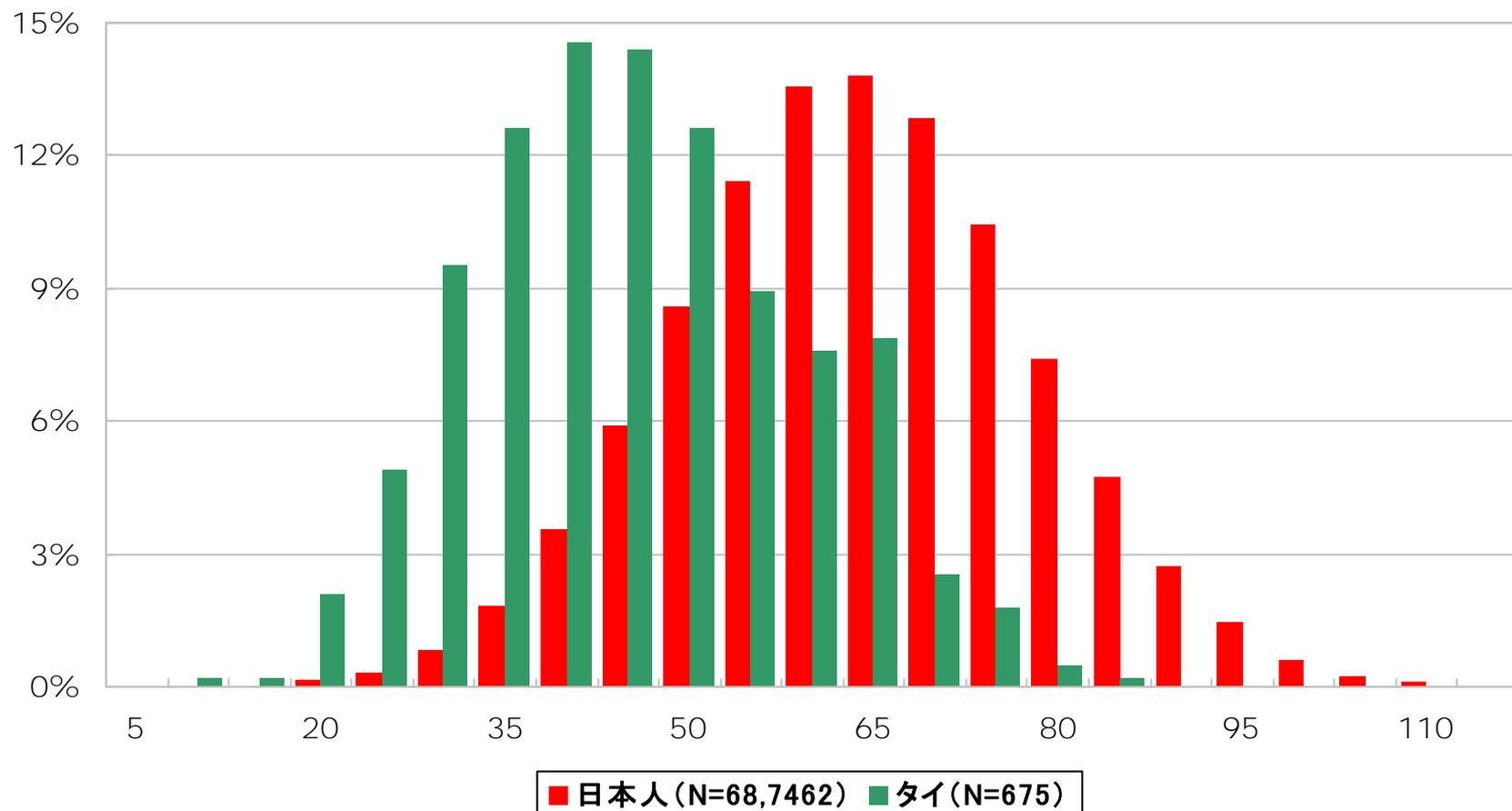
- ミャンマー人 上位20%(78名) AV=58.4
- ミャンマー人 全体 (388名) AV=40.6
- ミャンマー人 下位20%(78名) AV=25.0
- 日本人(2009-13年:128,913名) AV=60.3

- 平均作業量は今回の比較国ではいちばん低い。
- 作業曲線の傾向は日本人と似ている印象。全体にタイほど狭くなく、ベトナムほど初頭が出ない。

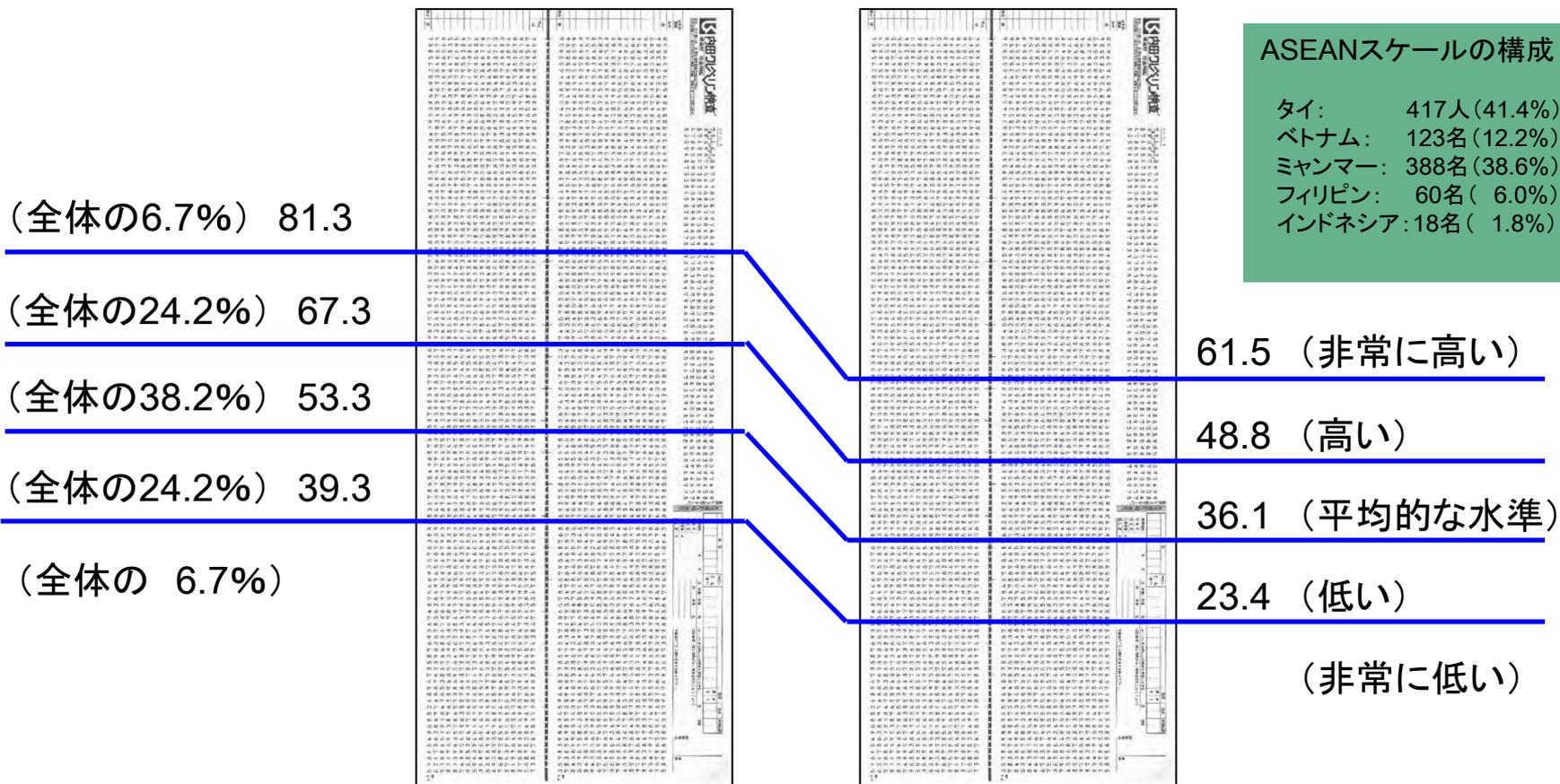


平日作業量の分布比較

日本人とタイ人の作業量の比較



東南アジアで検査を使うために ASEANスケールの開発



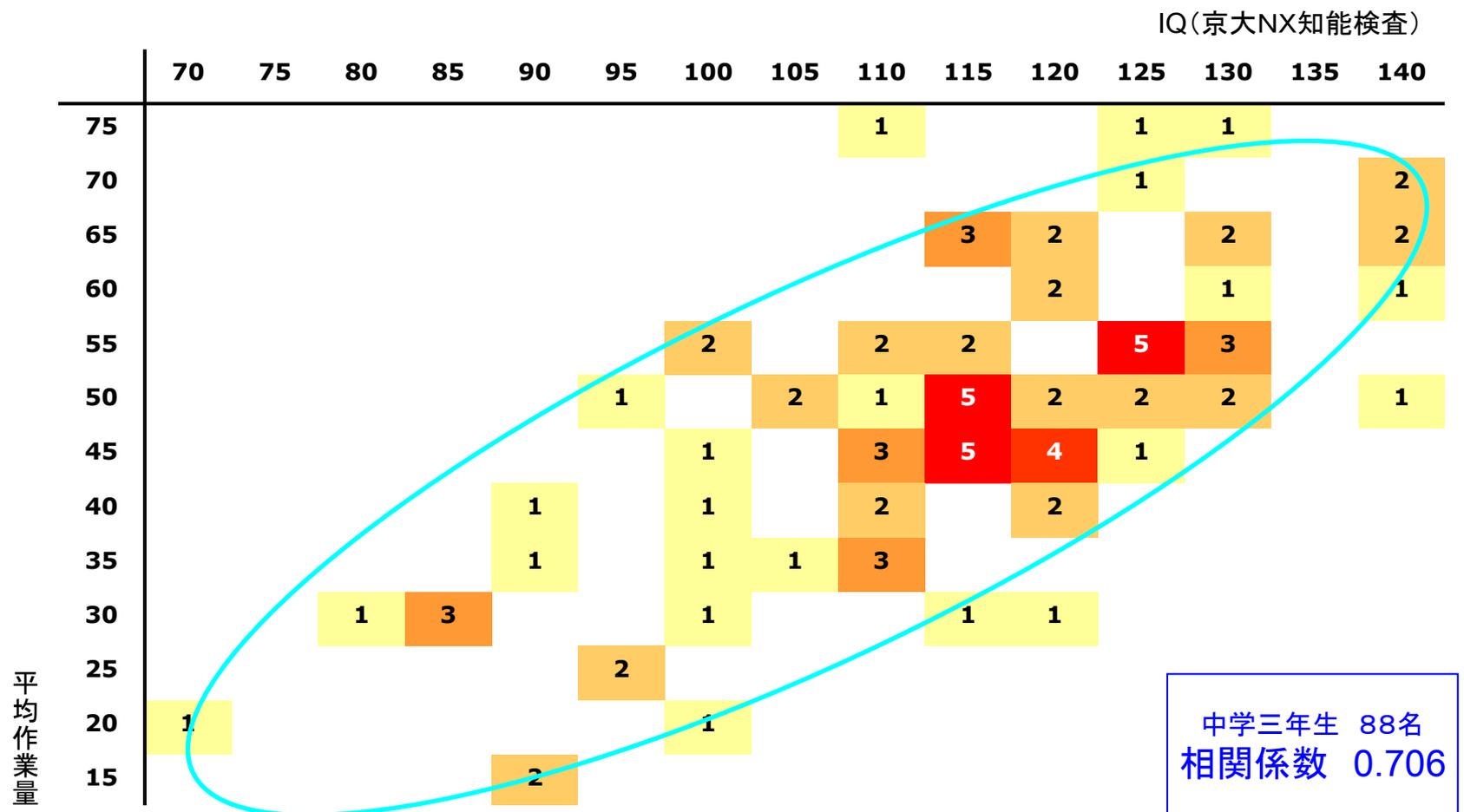
ASEANスケールの構成

タイ: 417人(41.4%)
 ベトナム: 123名(12.2%)
 ミャンマー: 388名(38.6%)
 フィリピン: 60名(6.0%)
 インドネシア:18名(1.8%)

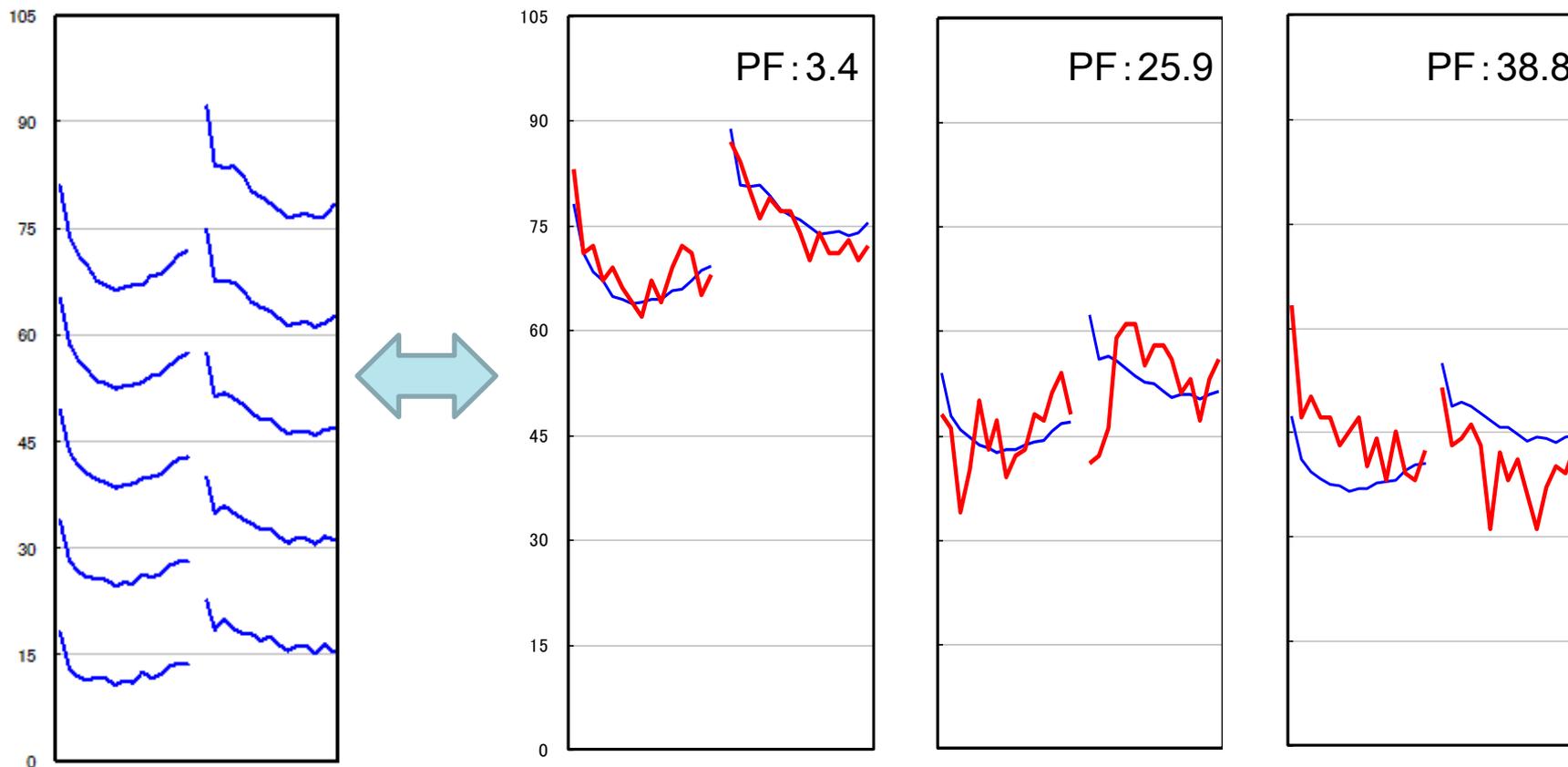
JAPAN(N=128,913) ASEAN(N=1006)

作業量は何を意味しているか

知能検査との相関（参考）

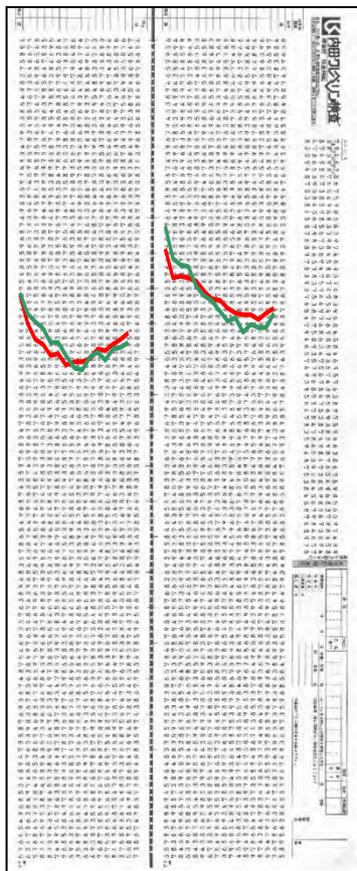


東南アジアで検査を使うために ASEANスケールの開発

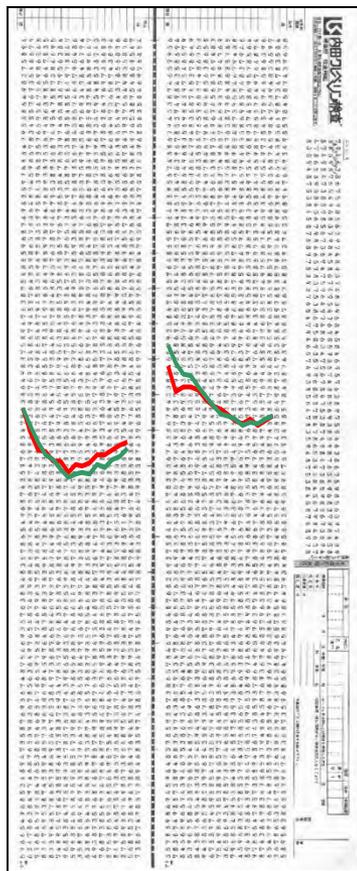


※イメージはASEANモデルではなく、日本人のモデルです。

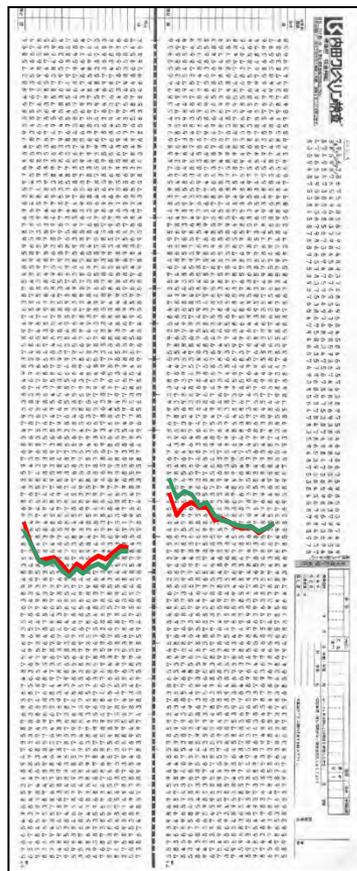
東南アジアで検査を使うために ASEAN スケールの開発



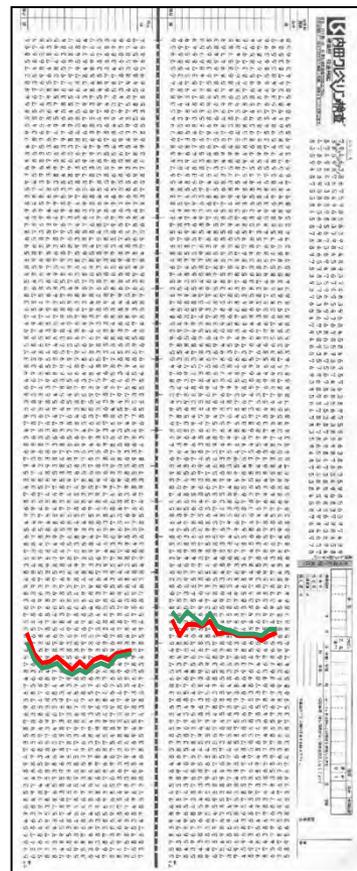
AV=75



AV=60



AV=45



AV=30

クラウドを利用した判定 JAPANスケールによる集団分布

Uchida-Kraepelin Test : Composition of Examinees

Entry No. : 16032601 Org Name : ██████████ Date of Entry : 2016-03-25 n = 45

	1	2	3	4	OUT of Range	SUM	
1	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	0 0.0%	
2	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	0 0.0%	
3	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	1 2.2%	
4	Me Yodani Mon Mya Sakdar Hnang Hnaw	Me Chin Nu Saw Me Pa Pa Hnang Me Tin Zar Win Zar Zar Lin Zar Ni San	Yat Wye Lat			8 17.8%	
5	Me Ni Ni Win Me Win Win Mon Me Aye Aye Thu Me Su Myak Aung Me Wau Ya Co Me Tin Tin Win Me Sa Myak Thandar	Me Kih Thu Zar Kyaw Me Mye Mye Thu Nhar Than Win Aung Than Than Nu Aye Tin Hnang Saw Zin Win	Me Aye Aye Aung Me Tin Tin Hnaw Me Tin Nhar Win Me Mye Mon Co Me Aye Aye Hnaw Me Aye Mye Mon Tin Tin Lee	Kyaw Su Aung Mye Zaw Tun Aye Mye Thu Zar Hnang Hnang Win Zin Lay Hnaw Lone	Me Moo Moo Hnaw Me Mye Zaw Tun Min Mye Hnang Mye Tharin Co	Hnin Nu Hnaw	35 90.0%
SUM	15	20	5	1	0	45	

m.odeljapan-1505

全体の80%が「非常に
水準が低い」レベルに
分布してしまい、弁別
力が低い。

※ミャンマーの日系企業での事例

クラウドを利用した判定 ASEANスケールによる集団分布

Uchida-Kraepelin Test : Composition of Examinees

Entry No. : 16032602 Org Name : ██████████ Date of Entry : 2016-03-25 n = 45

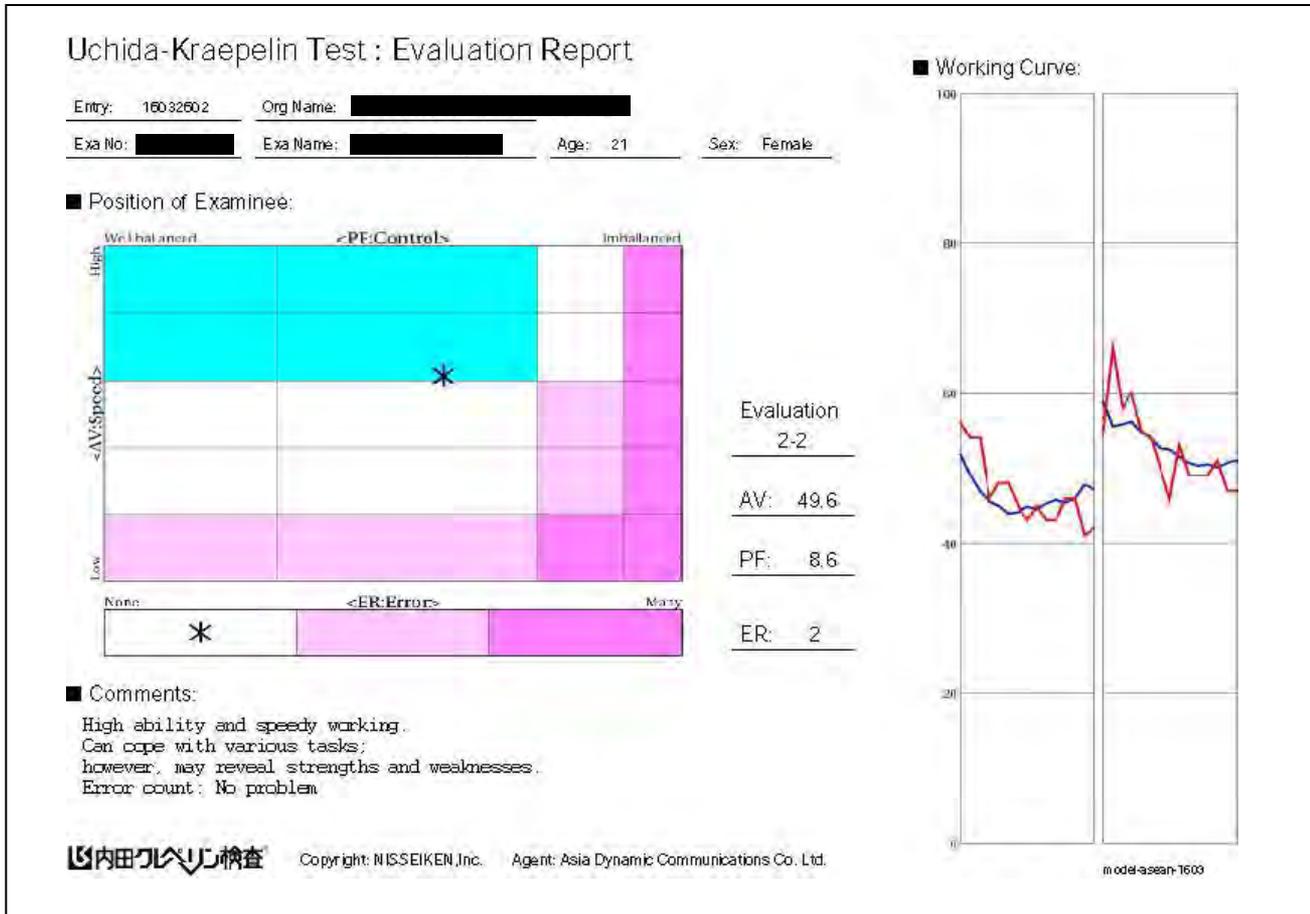
	1	2	3	4	Out of Range	SUM
1						0
2		Mr Kiang Myat Thu Ms Po Po Khing				2 4.4%
3	Ms Yedana Mon	Ms Chin Ni Saw Yat Yan Lei Zar Zar Lin Zar Ni San	Ms Thin Zar Win Win Yin Lee			7 15.6%
4	Ms Ni Ni Win Ms Win Win Min Ms Su Myat Aung Ms Win Win Co Ms Khin Thu Zar Kyaw Thaw Than Ni Aye Tun Hlong Aye Mon Saw Mya Sander Hlong Htoo	Ms Aye Aye Aung Ms Tin Tin Win Ms Hay Ma Co Ms Su Myat Theodor Ms Aye Aye Min Aye Myat Thu Zar Saw ZH Win Hlong Hlong Win Khin Lay Aye Chan Phyo Theodor Hay Win	Ms Mo Mo Htoo Ms Zee Tin My Theodor Co		Ms Myo Zee Tun	24 53.3%
5	Ms Aye Aye Thu Ms My Myat Thu Nilar Than Win Aung Saw Soe Myath	Ms Aye Myat Aun Kyaw Soe Aung Htoo Lone Naw Naw Tan Khin	Ms Tin Tin Htoo Ms Tin Nilar Win Myin Myat Hlong			12 26.7%
SUM	14 31.1%	21 46.7%	8 17.8%	1 2.2%	1 2.2%	45

n:0601-asean-1603

作業量の分布範囲が
広がり(約75%)、弁別
力が高まる。

※ミャンマーの日系企業での事例

クラウドを利用した判定 ASEANスケールによる個人評価



個人票をクローズアップすることで個人の特性を知ることができる。

個人の特性にあった配置や教育によって、集団としてのパフォーマンスをあげていくことができる。

※ミャンマーの日系企業での事例